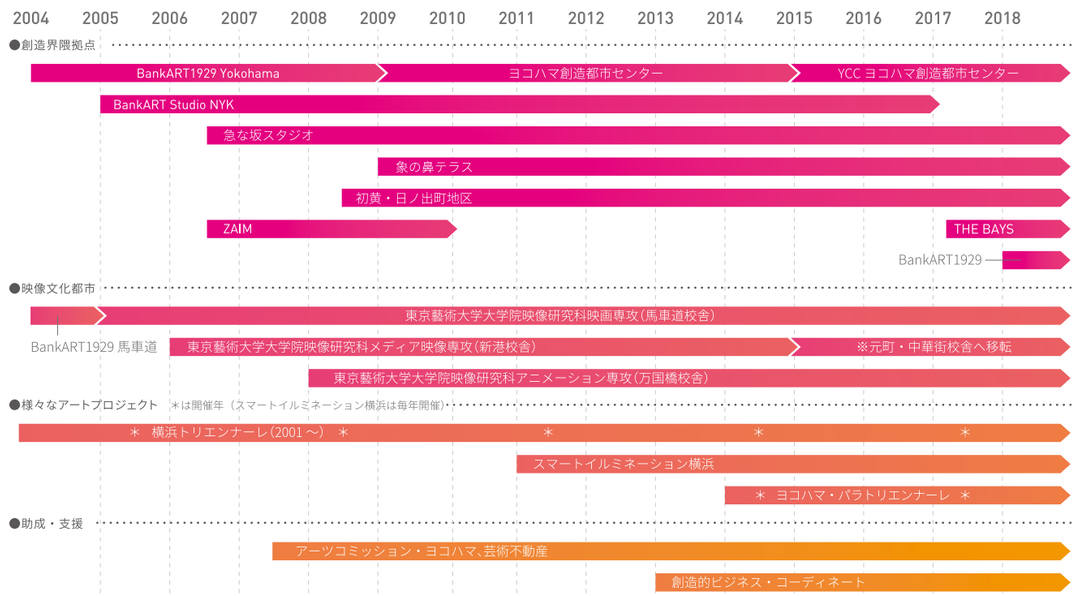
創造界隈エリアマップ

創造都市横浜の歩み



OPEN YOKOHAMA

【編集・発行】横浜市文化観光局　創造都市推進課

〒231-0015　横浜市中区尾上町 1-8　関内新井ビル6階　TEL：045-671-3506　FAX：045-663-5606　電子メール：bk-sozotoshi@city.yokohama.jp

CREATIVE CITY YOKOHAMA

創造都市横浜

CREATIVE CITY YOKOHAMA 創造都市横浜

はじめに

1859年の開港により、横浜は開国日本の象徴となり、内外から多くの人が集まり、質の高い文化交流が生まれました。海外からは多くの文化人や貿易商・技術者が来日し、世界最先端の技術や思想をもたらしました。国内から集まった人々は、先進的な産業や文化を積極的に学ぼうとする「進取の気性」に富み、それぞれの出身地の文化をこの横浜で融合させようとする「開放性」を創り上げていきました。日本の玄関として発展してきた横浜ですが、関東大震災（1923年）、横浜大空襲（1945年）、戦後の米軍接収など、いくつもの困難を乗り越えてきました。

このような困難を乗り越え、横浜市は未来の骨格を作るべく、みなとみらい21地区や高速鉄道、ベイブリッジの整備など大規模な都市計画を強力に押し進め、日本最大級の都市として発展してきました。

しかし、開港150周年を間近にした2004年当時、1983年に着工したみなとみらい21地区が特色ある商業施設などの整備によって賑わっていく一方で、開港以来横浜の中心となっていた関内地区などは、開港の街であった歴史を今に伝える当時の西洋建築や近代建築などの歴史的な建物が少しずつ姿を消し、横浜らしい風景が薄れたり、オフィスビルの空室率も増えたりするなど、経済・文化の両面で活力が失われつつありました。

この状況を脱し、再び横浜の魅力を取り戻していくために「クリエイティブシティ（創造都市）」という考え方に着目し、芸術や文化のもつ「創造性」をまちづくりに生かすことで、都市の新しい価値や魅力を生み出す「創造都市施策」が生まれました。

その一環として、歴史的建造物や公共空間等を活用し、創造的な活動を発信する創造界隈拠点の運営（2004年～）、映像分野における次世代育成を目的に映像文化都市事業（2005年～）を開始しました。さらには3年に1度開催される世界的な現代アートの国際展「横浜トリエンナーレ」（2001年～）、アートと環境技術が融合した「スマートイルミネーション横浜」（2011年～）などのアートプログラムの実施、アーティスト・クリエーターへの助成（2007年～）、遊休不動産の活用促進（2007年～）など、創造性を「中核」に据えた様々な事業を展開し、「選ばれる都市・横浜」として持続的に発展していくことを目指しています。

01 創造界隈拠点 ―歴史的建造物や公共空間等を活用し、創造的な活動を発信する

急な坂スタジオ（旧老松会館）

「稽古だけじゃない稽古場」から、「作品と人が育つ場所」へ

1993年に市営結婚式場として開業した「老松会館」は、2006年から舞台芸術の創造拠点「急な坂スタジオ」（運営団体：NPO法人アートプラットフォーム）として活用されています。結婚式場だった構造を生かし、演劇やダンスなどの稽古場としてスタジオやホール、和室などが用意されています。

また、「作品と人が育つ場所」として、アーティストへの助言やサポートなどを行っており、これまでサポートしたアーティストが岸田國士戯曲賞を受賞するなど、日本の舞台芸術を支える存在となっています。

2017年からは、今までの機能に加え、次世代育成に注力した施設としてNPO法人アートプラットフォームが新たな運営を開始し、2018年には舞台芸術を「食」で支える「急な坂食堂」をオープンするなど、より地域に開かれた稽古場として、その活動を発信しています。

急な坂スタジオ × Rie Tashiro（AYATORI）「Silhouette」
Photo:Kaede Konishi

YCC ヨコハマ創造都市センター（旧第一銀行横浜支店）

横浜の創造都市施策発祥の地

歴史的建造物である「旧第一銀行横浜支店」（1929年建築）は、2004年、横浜ならではの資源をまちづくりに生かす実験事業の第1号として、アートスペース「BankART1929　Yokohama」（運営団体：NPO 法人BankART1929）がスタート、横浜の創造都市施策の先駆けの場となりました。

2009年からは、文化芸術のもつ創造性を生かしたまちづくりのための中間支援やイベント・展示等を行う「ヨコハマ創造都市センター」（運営団体：（公財）横浜市芸術文化振興財団）として活用してきました。

2015年からは、市民が日常的に訪れるクリエイティブスペース「YCC ヨコハマ創造都市センター」（運営団体：NPO法人YCC）として、市民のクリエイティビティを高めると共に、地域との協働を推進し、まちの活性化に寄与するプログラムを多数実施しています。

café OMNIBUS

象の鼻テラス

様々な人や異文化が出会い、つながり、新たな文化を生む場所

象の鼻テラスは、開港150周年を記念し整備された象の鼻パークに、2009年に開館しました。無料休憩施設であると同時に、文化観光交流拠点として、2009年から、株式会社ワコールアートセンターが運営しています。

「文化交易」を運営コンセプトとし、世界の港町との文化交流を行うほか、国内外の質の高いアート作品の展示、観光インフォメーション、市民の創造的活動を発表する場の提供などを行っています。

象の鼻テラスのプロジェクトとして始まった、スマートイルミネーション横浜(P05)やヨコハマ・パラトリエンナーレ(P05)は、横浜を代表するアートプログラムへと発展しています。また、併設のカフェでは、食に関するイベントの開催や、特徴的なメニュー開発に取り組むなど、賑わいを生み出しています。

ポート・ジャーニー・プロジェクト「佐藤未来帰国展」
Photo:Hajime Kato

Photo:DAICI ANO

かつて、違法風俗営業を行う小規模店舗が250軒を超えていた初黄・日ノ出町地区は、地域、警察、行政が一体となって環境浄化に取組み、2006年の県警による一斉摘発により、違法店舗は閉鎖されました。その後、地域主体で設立された認定NPO法人黄金町エリアマネジメントセンターを中心に、元小規模店舗や京急高架下に整備したスタジオなどをアーティストの制作・発表の場として活用するなど、「アートによるまちづくり」を進めてきました。さらに、国内外のアーティストによるアートフェスティバル「黄金町バザール」などを毎年開催し、地域内外の交流を創出すると共に、地域の魅力を発信しています。こうした取組は、2009年に安全・安心なまちづくり関係功労者表彰「内閣総理大臣賞」、2017年に国際交流基金「地球市民賞」を受賞するなど、高い評価を受けています。

KB2017　Photo:Ryudai Abe

初黄・日ノ出町地区

官民一体の、アートによる地域再生まちづくり

BankART1929（文化芸術創造発信拠点）

関内～みなとみらいエリアを繋ぎ、創造界隈拠点の新たな可能性を探る分散型の創造発信拠点

BankART Station

BankART SILK

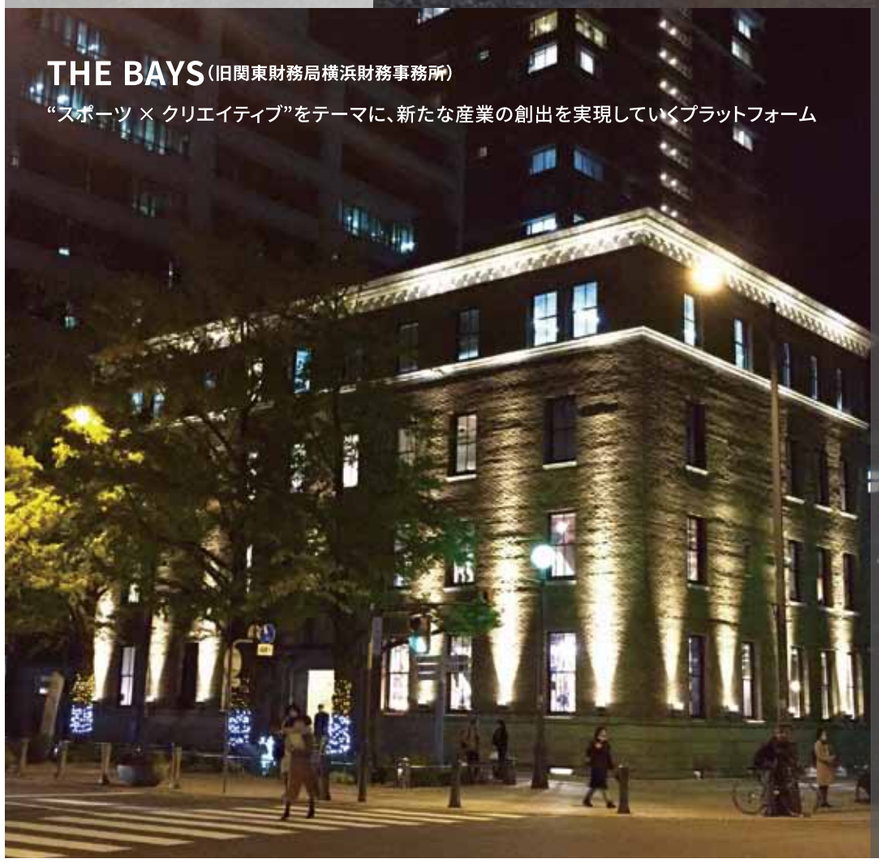
BankART Home

BankART Studio NYK※の機能の一部を継承する事業として、アーティスト・クリエーターの集積を促し、地域活性化や新たな賑わいづくりを目的に、関内関外エリアの空き店舗及びMM線新高島駅地下1階倉庫を活用する新たな分散型の創造界隈拠点が2019年にオープンしました。アーティスト・イン・レジデンス（AIR）を中心とした様々な創造的活動をBankART Station（新高島駅地下1階倉庫）、BankART SILK（中区山下町）、BankART Home（中区相生町）から発信します。

※BankART Studio NYK（日本郵船横浜元海岸通倉庫）

2004年に実験事業として旧第一銀行横浜支店「BankART1929 Yokohama」(P01)と旧富士銀行横浜支店「BankART1929 馬車道」(P04)がスタート、その後、旧富士銀行を東京藝術大学の校舎とするため、2005年からその機能を海岸通倉庫に移し、ホール、ギャラリー、カフェ等を備えたアートスペースとして活用してきました。現代美術家の大規模個展や、AIRの実施など、先駆的な文化芸術の発信を行い、国内外で活躍するアーティスト・クリエーターを輩出してきましたが、2018年3月に活用終了しました。

BankART Studio NYK



THE BAYS（旧関東財務局横浜財務事務所）

“スポーツ × クリエイティブ”をテーマに、新たな産業の創出を実現していくプラットフォーム

市指定有形文化財「旧関東財務局横浜財務事務所」（1928年建築）は、「横浜トリエンナーレ2005」のボランティア活動拠点や、若手アーティストの活動拠点「ZAIM」として2009年まで暫定的に活用されてきました。
その後、創造的産業の集積を推進し、賑わい創出及び経済活性化につなぐ中核施設とするため、2015年に改修工事等を開始。「株式会社横浜DeNAベイスターズ」が活用事業者となり、2017年3月に「THE BAYS」がオープンしました。
“スポーツ×クリエイティブ”をテーマに、新たな産業の創出を実現する会員制シェアオフィス・コワーキングスペースをはじめ、市民やクリエーターが交流を深めるカフェ、“日常生活に野球をプラスする”ライフスタイルショップ、まち全体をフィールドにスポーツを楽しみ健康で活動的な生活スタイルを創り出すスタジオなどを展開しています。

CREATIVE SPORTS LAB

02 映像文化都市 ー未来を担う次世代育成の推進（クリエイティブ・チルドレン）

東京藝術大学大学院映像研究科（旧富士銀行横浜支店）

映像分野における次世代を担うクリエーターの育成のために

東京藝術大学馬車道校舎

馬車道校舎大視聴覚室

東京藝術大学による地域貢献事業　©東京藝術大学

2004年、旧富士銀行横浜支店は旧第一銀行横浜支店(P01)と同じく、歴史的建造物を活用した芸術文化創造の実験事業の第1号として、「BankART1929 馬車道」となり、歴史的資産を現代に生かす試みが始まりました。その後、2005年に「映像文化都市」の実現を目指して横浜市は東京藝術大学大学院映像研究科を誘致し、映画専攻の校舎（馬車道校舎）として活用されています。
映画専攻に続き、メディア映像専攻（新港校舎※その後元町・中華街校舎へ移転）、アニメーション専攻（万国橋校舎）の計3専攻が設置され、横浜を舞台に映像分野における次世代クリエーターの育成が進められています。
2017年から2018年にかけては、世界三大映画祭（カンヌ国際映画祭、ベルリン国際映画祭、ヴェネチア国際映画祭）のすべてに映像研究科の修了生の作品がノミネートされており、世界で活躍する人材が育成されています。

03 様々なアートプロジェクト ー街にアートを広げる

横浜トリエンナーレ

日本を代表する現代アートの国際展

ヨコハマトリエンナーレ2017 パオラ・ピヴィ《I and I（芸術のために立ち上がらねば）》など
Photo:Yuichiro TANAKA　Courtesy the Artist and Perrotin

横浜トリエンナーレ2001 Tsubaki Noboru+Murai Hisashi,*The Insect World/Locust*,2001
Photo:Mikio Kurokawa

横浜トリエンナーレは、3年に一度開催する現代アートの国際展として、国際的に活躍するアーティストの作品を展示するほか、新進のアーティストも広く紹介し、世界最新の現代アートの動向を提示してきました。
2001年の第1回展開催以来、世界情勢が目まぐるしく変化する時代の中で、世界と日本、社会と個人の関係を見つめ、アートの社会的な存在意義を多角的な視点で問い直してきました。
文化庁の支援を受けたナショナルプロジェクトとして、そして文化芸術創造都市・横浜を象徴するプロジェクトとして多数の来場者を迎えています。

スマートイルミネーション横浜

世界に誇る、創造的横浜夜景を創出する、新たな時代のイルミネーション

スマートイルミネーション横浜は、環境・省エネ技術とアートの創造性を融合させ、新たな夜景の創造を試みるアートイベントです。2010年、象の鼻テラス(P02)の「夜景開発プロジェクト」としてスタートし、2011年に東日本大震災を踏まえ、LED照明や太陽光発電などの環境・省エネ技術の活用をテーマに加え、第1回目を開催しました。2012年からは規模を拡大し、「世界に誇る、創造的横浜夜景」をテーマに、幻想的な夜景を生み出しています。また、若手アーティストの発掘、育成を目的とした取組も実施しています。

髙橋匡太「カオハメ・ザ・ワールド」　Photo:Hideo Mori

森貴之「UVLS」　Photo:Ryohei Tomita

スマートイルミネーション横浜2017　Photo:Hideo Mori

ヨコハマ・パラトリエンナーレ

障害者と多様な分野のプロフェッショナルによる現代アートの国際展

ヨコハマ・パラトリエンナーレ2017「不思議の森の大夜会」　Photo:Hajime Kato

カンボジアでのアート作品制作

シーダひのき工房×小林勇輝「Fairy of the cedar」Photo:Hajime Kato

ヨコハマ・パラトリエンナーレは、文化芸術のもつ創造性により、共生社会の実現を目指す取組です。2009年、象の鼻テラス(P02)の自主事業として、福祉施設とアーティストとの協働によるものづくり「横浜ランデヴープロジェクト」を開始。より多くの人が参加できるアートプロジェクトへ発展し、2014年、ヨコハマ・パラトリエンナーレを初開催。以後、3年に一度開催しています。多様な分野のプロフェッショナルと協働して作品の制作を行うことや、障害の有無に関わらず多くの方が参加できること、インスタレーションやパフォーマンスなどあらゆる芸術表現を含むことなどが特徴です。

04 助成・支援 ー創造都市を支え、つなげる

アーツコミッション・ヨコハマ（ACY）

文化芸術創造都市のプラットフォームへ

2059 FUTURE CAMP IN YOKOHAMA　Photo:Oono Ryusuke

きくたびプロジェクト　Photo:Yusuke Nakajima

関内外OPEN！

アーツコミッション・ヨコハマは、文化芸術創造都市・横浜の実現に向け、アーティスト、クリエーター、市民などの創造の担い手が活動しやすい環境づくりを進め、文化芸術のもつ創造性を生かしたまちの活性化や、国内外への横浜の魅力発信を目的に、相談窓口・助成・情報発信の3つを事業の柱として2007年に開始しました。2016年からは、さらに文化芸術振興、創造的まちづくり、創造的産業等様々な関係者のつながりを拡げ、新たな事業やビジネスを生み出す触媒機能となるプラットフォーム運営を、（公財）横浜市芸術文化振興財団を通じて事業展開しています。

芸術不動産

「不動産×クリエイティブ」で遊休不動産を再生

2007年、アーティスト・クリエーターの集積を目的として、関内・関外地区の遊休不動産を活用した民設民営型の創造的活動拠点を創り出す「芸術不動産事業」がスタートしました。2010年には、「芸術不動産リノベーション助成」を開始し、「泰生ビル」など、8件の助成が実現、2015年からは、横浜固有の戦後建築遺産である「防火帯建築」に着目し、民間主導による芸術不動産事業を推進した結果、「弁三ビル」、「住吉町新井ビル」でモデル事業が実現しました。2018年からは、不動産所有者の相談対応等を行う組織の運営を実験的に開始しています。

外観

改修前

住吉町新井ビル　改修後

創造的ビジネス・コーディネート

様々な産業とクリエーターの創造性をかけあわせ、新たなビジネス機会を創出

「texi yokohama」展示会

Blister Clock

クリエーターグッズショップ

横浜では、市内のアーティスト・クリエーターの活躍の場をひろげ、経済活性化にもつなげるため、アーティスト・クリエーターと企業・地域が連携し、新たなビジネス機会を創出する「創造的産業の振興」に取り組んでいます。2013年にモデル事業を開始し、2016年からは企業の技術力（technic）とクリエーターの創造性（idea）をかけあわせた地域ブランド「texi yokohama」を通じ、付加価値の高い商品開発・販路開拓を行っています。
また2018年からは、販路開拓の拡充に向け、様々な産業とクリエーターの創造性を生かした商品を販売するショップの設置・運営を開始しています。